

## 水資源

主に貢献する  
SDGs



### 社会課題

### ★ 水資源の確保

人口増加や経済成長に伴い、世界の水需要は急速に増大しています。明治グループは、水資源の確保を重要な社会課題の一つと認識しています。水資源は私たちの事業活動に不可欠であり、その効率的な利用や適正な排水管理などに取り組んでいます。明治グループでは、2020年9月に「明治グループ水資源ポリシー」を制定。2050年までに水使用量を売上高原単位で半減し、「ウォーターニュートラル<sup>※</sup>」の実現を目指しています。

※ 水資源の涵養活動により、製品原料として使用する量と同等量の水を自然に還元する取り組み

### 2020年度水使用量



(国内)  
集計対象範囲はP.85に記載しています。  
☑の付された数値は第三者保証を受けています。  
(海外)  
海外生産系13工場を集計しています。

### 水の効率的使用に関する取り組み

#### 各工場で水のリデュース/リユースを推進

➤ 取り組みの進捗は P.83 をご覧ください

海外を含む明治グループ全体での水使用量(売上高原単位)を2030年度までに20%以上、さらに2050年までには50%以上削減する目標(2017年度比)を設定しています。2020年度実績として、水のリデュース/リユースの推進により2017年度比での売上高原単位を5.3%削減しました。リデュースの一例として、培養工程で使用するプロセスエア用除湿装置の内部冷却コイルに使用する水量の最適化を実施し、450千<sup>3</sup>m/年の井戸水の揚水量(約17%相当)の削減を達成できる見込みです(Meiji Seika ファルマ(株) 岐阜工場)。その他、節水ホースや節水ノズルなどの導入や、雨水のトイレへの活用を図っています。また、リユースでは冷却工程で使用した水の循環利用を進めています。

### 排水の水質に関する取り組み

#### 厳格な自主管理基準に沿って排水処理

排水の水質管理は、各国の法令よりも厳しい自主管理基準を設定し、活性汚泥処理法で排水処理を実施しています。排水負荷の大きな廃液は通常の排水工程に加え、メタン発酵処理施設を導入し、二段階で処理しています。PT.メイジ・インドネシア・ファーマシューティカル・インダストリーズでは、処理設備の増強などに積極的に投資して、排水管理基準を順守しています。



PT.メイジ・インドネシア・ファーマシューティカル・インダストリーズ 活性汚泥処理システム

### 洪水に対する取り組み

#### BCPの策定や水害対策の設備導入を順次展開

洪水リスクには、ソフト・ハードの両面から対策を立てています。ソフト面では、拠点ごとに水リスクを考慮したBCP<sup>※</sup>の策定を進めています。ハード面では、リスク発生による想定被害額を算出し、被害額が大きと思われる拠点から順次必要な施策を行っています。すでに小田原工場でボックスウォール(仮設止水板)の導入や変電所防水堤の新設、空調室外機の予備基板導入、各エリアの浸水対応手順書作成などを推進し、水害対策の総合訓練を実施しています。



Meiji Seika ファルマ(株) 小田原工場での仮設止水板の設置訓練の様子

※ Business Continuity Plan (事業継続計画)